1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通/1階、2階ユニット)

事業所番号	2770107320			
法人名	社会福祉法人 天寿会			
事業所名	グループホーム ファミリーハウス美原			
所在地	大阪府堺市美原区平尾1848番地1			
自己評価作成日	令和5年10月1日	評価結果市町村受理日	令和5年12月8日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔

62 軟な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター				
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階				
訪問調査日	令和5年11月1日				

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型認知症対応型グループホームとしての役割を職員全員が認識し、認知症ケアのプロとして利用者様が安心・安全に生活できるよう内部・外部での研修等に積極的に参加している。地域との関わりを大事にし地域に貢献できる取り組みとして、毎月の地域清掃、天寿会秋祭り、BBQ大会を開催しています。コロナ5類になり4年ぶりに天寿会秋祭りを開催する予定です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は近畿圏に5箇所の高齢者介護施設を運営している。当事業所は美原区では第1号グループホームとして23年前に開設され、法人理念「笑顔の力」を掲げている。開設当初からの10年以上勤務のベテラン職員が半数以上在籍し、家庭の事情で退職した職員が再就職する等、明るく楽しい職場の雰囲気となっている。10月には4年ぶりに秋祭りを開催し、数々の出店を出して、久々に地域との交流を復活させている。またPDCA(プラン・実行・評価・改善)手法を導入して目標達成のためのチームワークを作り、職員が一丸となってそれぞれの分野での業務に従事している。独自の視点で「フリー職員」制度を設け、決められた業務ではなく「気付きノート」のもとに違う視線から物事を見られるように訓練している。

▼. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	取り組みの成果 項目 ↓該当するものに○印
職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 56 を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の ○ 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求
利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 57 がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20) 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 〇 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関
利用者は、職員が支援することで生き生きした 9 表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが (参考項目:11,12)
利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 〇 4. ほとんどいない	# 日本
利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な (過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	職員から見て、利用者の家族等はサービスに
利田者は、その時々の状況や英望に応じた柔	1. ほぼ全ての利用者が	

【本評価結果は、2ユニット総合の外部評価結果である】

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Alt+-)+(Enter+-)です。]

_				外部評価	
自己	外部	項目	自己評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共 有して実践につなげている	事業所理念「地域に愛されて、ゆったり、ワイワイ、ほかほか、くつろぎと微笑みの家」天寿会として「笑顔のちから」にあるようにサービスと笑顔を提供しています。自立支援の観点からも自宅にいるように出来ることはして頂くように支援させて頂いています。	大くないに加えて、事業所では独自性心を考 え、休憩室や各ユニットに掲示している。職員 は「笠類のカ」の実現に良けて食までどう」の	
2	(2)	常的に交流している	R5年コロナ5類になり、地域の行事が再開され、さつきの祭り、天寿会祭り等、事業所と地域と交流する事ができ、今後も地域との繋がりの復活が期待できます。	老人会から情報を得て地域のお祭りや行事に参加していたが、ボランティアの受け入れも含めてコロナ禍の中で中止となっている。管理者は地域の清掃活動に参加して交流を継続させている。隣の畑からの野菜の差し入れを貰っている。事業所ではイベント時の焼き芋をお礼で渡している。	
3		に向けて発信している。	地域住民への機関紙配布、R5年よりコロナ5類に移行し地域住民が参加する行事を再開しています。地域住民の介護相談会も再開予定しています。		
4	(3)	施、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に向けて活かしている	更事項やグループホーム内の取り組み、現状 報告等をFAX及び郵送にて、意見や要望を受けサービス向上に取り組んでいます。報告書	会議には自治会や老人会会長、地域包括センター職員、民生委員、知見者(他グループホーム管理者)から郵送にて意見を聞き書面開催をしている。会議では行事報告、予定、地域の取り組みが紹介され、現状帰宅願望の利用者(3名)に関しての対応策を報告している。	会議は全て書面開催でヒヤリハット・事 故報告も記載されている。今後は家族 や利用者の参加を呼びかけ対面開催を 望む。又議事録は家族や関係者に送る ことを望む。
5	(4)			市の地域福祉課・地域包括支援センターとは 事業所現状の報告、相談事等で電話や訪問 している。グループホーム連絡会は年に6回 開催している。会議には欠かさず出席し空室 状況などを話し合っている。	

自	外		自己評価	外部評	価
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	をしないケアに取り組んでいる	毎月の会議、研修、勉強会は継続している。委 員会の名称を身体拘束適正化委員会に変更 する。	法人の身体拘束指針を基に、身体拘束適正化委員会を開催している。研修の中では言葉の変換の仕方や接遇に対しての話し合いをし、職員の意識の向上を図っている。現在、帰宅願望の対策のため、玄関は施錠しているが、ユニット間は自由に行き来できるようになっている。	
7			虐待防止に関する研修を定期的に行っています。言葉の暴力や接遇の勉強会を開催し、利用者様に対する言葉使いを徹底するようにしています。職員間で虐待を起こさせない、見過ごさない職場の雰囲気づくりにも努めています。		
8		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や 成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、それらを活用 できるよう支援している	成年後見制度が必要と判断される方についてはその手続きが円滑に行えるよう関係機関との連携をとっています。施設内に於いても年1回以上研修、勉強会を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用 者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な 説明を行い理解・納得を図っている	利用料金や急変の対応については入居前に 懇切丁寧に説明し、同意を頂いた上で契約を 締結しています。尚介護保険制度の改定時、 消費税 増税等により、重要事項説明書、契約 書の変更があった場合、事前に、本人、家族様 に 変更内容の説明を行い同意を得ています。		
10	(6)		し、運営に反映しています。意見箱を設置、口 頭では伝えにくい意見も受け付けるように努め	面会は月に2回(10分程度)会議室で家族の希望を聞きながら行なわれている。季節の変わり目には家族と共に衣類や寝具の取り換えをしている場面を利用し家族の要望を聞いている。法人からは年に2回お便り(ファミリー新聞)が発送されている。	年に2回のファミリー新聞の他に請求書発送時を利用し、写真や担当者からの一言メッセージ付きのお便りを送って、家族に利用者の元気な姿の報告をすることを期待する。

自	外		自己評価	外部評	価
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	〇運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意 見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議、全体会議に出席し職員の意見や提案を抽出し運営に反映しています。	毎月全体会議の前にユニット会議を開いている。職員は定期的に自己評価をし、目標(研修希望等)を立て管理者と個人面談をし様々な相談をしている。利用者の身体状況により色々な食事形態を考え健康の維持を話し合っている。	
12		〇就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、 やりがいなど、各自が向上心を持って働ける よう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場づくりとして、定期的に自 己評価及び、目標達成度の確認、職員の勤務 実績や日々の努力を評価しています。		
13		〇職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの 実際と力量を把握し、法人内外の研修を受け る機会の確保や、働きながらトレーニングして いくことを進めている	法人内外研修へ積極的に参加を促しています。ホーム内でも勉強会を開催し、スキルアップを図っています。		
14		〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する 機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互 訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上 させていく取り組みをしている			
II .	_	▲信頼に向けた関係づくりと支援 ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のアセスメント、入所初期の段階等、本 人の発する言葉の意図を考え、見える部分だけではなく、裏に隠れている核心部分に気付けるように心がけています。安心して頂けるようにコミュニケーションに時間をかける事も心がけています。		

自	外		自己評価	外部評	価
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困って いること、不安なこと、要望等に耳を傾けなが ら、関係づくりに努めている	家族様とは施設見学、申し込みから入居に至るまで十分に話しをしています。要望等についても十分聞き取り行い、不安解消を行い、信頼関係を築けるよう努めています。		
17		〇初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、 他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前にアセスメントを徹底し、本人、家族の 意向、思い等を聞き取りし、介護サービス、そ の他のサービスの提供(医療、理美容等)も含 めて、本人に必要なサービスを検討していま す。		
18		〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いて いる	掃除や料理、洗濯等は職員だけで行わず入居者と一緒に行っています。利用者様は家族の一員という事を念頭に、できること、できないことを見極め、好きな活動、できる家事は一緒に行い、利用者様が困った時などはさりげなくフォローする関係を構築しています。		
19		〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本 人を支えていく関係を築いている	コロナが5類になり、面会は全面解除ではありませんがコロナ前に戻りつつあります。継続して本人と家族との関係が希薄にならないように、家族様へのこまめな報告や相談等行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	利用者様の大切な方々が気軽に来訪頂けるよう努めています。またこれまでの関わりを定期的に家族様に確認し、ご家族の了解を得ながら関係が継続されるよう努めています。	新たな馴染みの関係として、リハビリテーションやデイサービスセンターでの出会いを大切にしている。理・美容では定期的に施設に訪問がある。車でドライブし、懐かしい自宅近くを回り、神社への参拝をしている。	

白	外		自己評価	外部評	価
自己	部	項目	実践状況	実践状況	ップログライス 次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え るような支援に努めている	利用者様同士の交流が円滑に行えるよう、時には席替えしたり、と対応しています。孤立しやすい利用者様には職員が間に入り交流できるよう支援させて頂いています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまで の関係性を大切にしながら、必要に応じて本 人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努 めている	契約が終了しても、在宅サービスについての相 談等にも対応しています。		
		人らしい暮らしを続けるためのケアマネジ	メント		
23	(9)	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の 把握に努めている。困難な場合は、本人本位 に検討している	職員が日ごろの会話の中で得た情報を共有をしています。アセスメントの中でもご本人・ご家族の意向や思いを聞き、個別対応しないといけない利用者様に対しても出来る限りのサービスはしています。	入所時には以前のケアマネージャー、自宅や病院訪問等で情報を得ている。日頃の生活から一人ひとりの思いを把握するようにし、利用者の好きな事、嫌いな事、出来る事を聞き取り「気付きノート」に書き留め職員間で共有している。	
24		〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生 活環境、これまでのサービス利用の経過等の 把握に努めている	初回面談での聞き取り、入所後家族面会時で の聞き取り等、利用者様の生活歴、生活環境 を把握しています。		
25		〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有 する力等の現状の把握に努めている	利用者様個々に担当職員を決め、日々の状態 変化を観察し、記録に残し、現状把握し必要時 カンファレンスを実施しています。		

自	外		自己評価	外部評	面
自己		項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	〇チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり 方について、本人、家族、必要な関係者と話し 合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、 現状に即した介護計画を作成している	本人の意向確認、家族の意見等を聞き取りし、 主治医、看護師等の意見等も考慮しカンファレ ンス行い、反映できる事は反映しケアプラン作 成しています。(気づきノート、モニタリング、連 絡帳、支援経過は継続k)	介護計画は短期6か月、長期1年とし、体調の変化が有れば計画の見直しを行っている。 サービス担当者会議はケアマネジャー、居室担当者が中心になり開催している。事前に医師や看護師、理学療法士、家族から意見をきいている。出来上がった計画は家族に説明し同意を得ている。	
27		〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工 夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有 しながら実践や介護計画の見直しに活かして いる	記録は、日常生活に関すること、ケアプラン実施状況に分けて行っています。また申し送りを徹底する事で職員全員が情報共有できるよう努めています。この一連の流れにより、利用者様のニーズに対し迅速に対応でき、ケアプランに反映できています。		
28		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法令遵守を基本とし、出来る限りのニーズに応えています。受診 個人の買い物等も基本家族様にお願いしていますが、どうしても対応できない場合は施設で対応しています。		
29		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を 把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全 で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援 している	地域の社会資源を把握し、利用者様が活用できる事は積極的に活用しています。令和5年によりコロナ5類になり、地域行事参加は再開しています。(訪問美容室、近隣整形外科からのリハビリ体操は継続。)		
30	(11)	〇かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、 納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係 を築きながら、適切な医療を受けられるように 支援している	週1回の訪問診療、週2回の訪問看護師と連携を取りながら適切な医療を受けられるよう支援しています。家族様の希望により外部病院も受診可能です。	療、訪問歯科・口腔ケア診療を受けている。必	

自	外		自己評価	外部評	価
自己	外部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		〇看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報 や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等 に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診 や看護を受けられるように支援している	職員は、日常生活の中で利用者様の状態を把握し、訪問看護師に伝えて相談を行っています。 看護師の訪問は利用者様の状態、状況により、スポットでの対応をしてもらっています。		
32		に、又、できるだけ早期に退院できるように、 病院関係者との情報交換や相談に努めてい	利用者様の入院時には、介護サマリーを情報 提供し、環境の変化にも不安がないよう、安心 して治療に専念できるよう努めています。また 退院時前カンファレンスに参加しスムーズに退 院でき、退院後も安心して生活に戻れるように 対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、 早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、 事業所でできることを十分に説明しながら方 針を共有し、地域の関係者と共にチームで支 援に取り組んでいる	重度化した場合に施設としての考えを家族に 説明し、同意を得ています。必要に応じ他施設 の紹介や申し込みについても提案、支援してい ます。(重要事項説明書にも記載し同意を得て います。)	入居時に重度化や終末期における施設の方針(身体の変化に伴い浴槽を跨げなくなった時を基準としている)を説明している。移行に際しては家族との話し合いをし、身体状況に応じた次の住まい(施設等)への紹介をしている。	今までの利用者は話し合いの上系列の 福祉施設か病院か、家族が希望する施 設等へ移行している。移行に際して口頭 による説明だけでなく、家族が安心・納 得して次の生活を考えられるように、書 面での案内を望む。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての 職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的 に行い、実践力を身に付けている	定期的に、応急手当や初期対応等、勉強会を 行っています。利用者の急変時や事故発生時 の備えとしてマニュアルを整備し、緊急連絡網 での連絡も職員が速やかに行えるよう事務所 に掲示しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に つけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力で年2回実施。災害自主訓練年4回実施しています。夜間の地震による訓練実施。	年間の災害時避難訓練計画を作り、年4回訓練を実施予定しているが、その他に独自の毎月ミニ訓練を設定している。災害時の避難救助に関する研修も行っている。利用者も毎月の避難訓練に参加し、避難訓練が生活のリズムになっている。現在2階の避難が難しい車いす利用者の対応を話し合っている。BCP策定は進行中である。前回指摘の備蓄品3日分は、7日分に増やした。	

自己	外		自己評価	外部評例	西
	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV.	その	人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	〇一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバ シーを損ねない言葉かけや対応をしている	シーの確保に努めています。(トイレ、浴室、居		
37		〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表した り、自己決定できるように働きかけている	会話の中から本人の思いを聞き出すよう努め、 活動に反映させています。家事、趣味活動、可 能な限り、自己決定し行えるように支援してい ます。		
38		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切にし、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援し ている	利用者様の趣味を大事にし、継続してもらえる よう支援しています。入浴も決まった曜日は設 定しているが、気分によっては入浴日を変更し て対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択や、希望により訪問理美容の支援をしています。季節に合った衣類の交換などご家族にも協力してもらい、本人様と一緒に衣替えをしてもらっています。		
40	(15)	〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの 好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている	の食事行事を開催しています。また、おやつレ クリエーションを定期的に行い、食材のカットや	法人の管理栄養士から献立プランを貰い、朝昼は施設の職員が魚を食べない人への調理方法等を試行錯誤し、また咀嚼状態を観察し材料別に大きさを変えている。夜は近くの系列特養から調理済みの料理が運ばれてくる。誕生日のケーキは特大で手作りし、食べたいだけどうぞと案内し、取り寄せの寿司、ピザ、ハンバーガーなども好評を得ている。利用者は出来る範囲で準備・後片付けに参加している。	

白	外		自己評価	外部評・	価
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通 じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、 習慣に応じた支援をしている	同法人の管理栄養士が作ったメニューを基本 にし、栄養面、カロリー等考え食事提供してい ます。利用者様の状態により、水分量の記録を 行っています。食事形態についても、利用者様 の状態にあわせ随時変更行い対応していま す。		
42		〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じ た口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア行っています。本人が出来る 事は自身で行ってもらっています。週1回の訪 問歯科では治療及び口腔ケア実施していま す。		
43	(16)	〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひ とりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、 トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を 行っている	排泄チェック表利用し、個々の排泄パターンを 把握し、声かけをしています。また、自身でトイレに行くが失敗のある方には、自尊心を傷つけないよう配慮しながら、声掛け、介助等の支援行っています。	全員のトイレでの排泄を心掛けている。オムツ	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の 工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予 防に取り組んでいる	毎日の体操、機能訓練、毎朝食時のヨーグルト、牛乳提供、1日1200CC以上の水分摂取を 徹底し、自己排便できるように支援しています。排泄表を活用し排便の確認をしています。 便秘が続く場合は主治医の指示の元、便薬、 浣腸(看護師)等の対応行い排便コントロール を行っています。		
45		〇入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入 浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時 間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援 をしている	基本週2、3回以上の入浴を行っています。利用者様の希望により入浴時間の変更もしております。体調により入浴できない時は清拭し清潔保持をしています。定期的に菖蒲湯、桃湯、柚子湯、どくだみ湯等、よもぎ湯等開催し入浴を楽しんで頂いています。	入浴は午前中で、湯船につかる気持ち良さと 清潔保持を優先し、ゆとりのある時には他の 人にも声をかけている。家庭用の個浴で全員 が浴槽をまたげ湯船につかることが出来てい る。どくだみ湯、よもぎ湯、ミカンの皮を利用す る等、職員がいろいろな試みをし利用者の気 持ちをアップさせている。	

白	外	項目	自己評価 外部評価		価
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		〇安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に 応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れる よう支援している	昼食後等、状況をみて臥床時間を設け休息し		
47		〇服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作 用、用法や用量について理解しており、服薬 の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の薬剤情報を個人ファイルにファイリングし、薬の作用、副作用の理解に努めています。 また提供前には職員ダブルチェック行い誤薬 の予防をしています。服薬提供時は利用者様 の名前を確認し、復唱し別職員に確認してもら い行っています。		
48		〇役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしてい る	アセスメントにより一人ひとりの趣味、楽しみを 把握し、手芸、園芸や新聞購読等、今までの生 活や趣味が継続できるように支援しています。		
49	(18)	は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候により、施設前の庭で外気浴行ったり、定期的にドライブ、また季節を感じてもらえるような外出行事を企画しています。(桜の花見、観梅 紫陽花)近隣散歩も再開しています。	コロナウイルスが完全に収まらない中、一日 に一回は全員が玄関から外に出ることを試み ている。事業所は郊外に位置し、前庭にはミカ ン・桜の木が有り玄関から外に出るだけでも閉 塞感の解消になる。ドライブで車窓から四季の 移り変わりを眺めたり、近くの道の駅には他の お客様が混まない時間帯を見計らって買い物 に出かけている。	
50		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理 解しており、一人ひとりの希望やカに応じて、 お金を所持したり使えるように支援している	コロナが5類になり、買い物、外食等も再開して いく予定であります。		

自	外	項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、 手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話持参の利用者様は家族の同意のもと 居室より家族と電話してもらっていますが、携 帯を持っていない利用者様は施設の方針とし て電話をしたり取次ぎは緊急性がない場合は 基本禁止しています。但し手紙でのやり取りは しています。		
52	(19)	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、 浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混 乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度 など)がないように配慮し、生活感や季節感を 採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫を している	は季節感が感じられる装飾も行っています。また、湿度・温度を測定し過ごしやすい空間づくりに努めています。フロアには皆でテレビが見れるように配置しています。		
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った 利用者同士で思い思いに過ごせるような居場 所の工夫をしている			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と 相談しながら、使い慣れたものや好みのもの を活かして、本人が居心地よく過ごせるような 工夫をしている	自宅で使われていた馴染みのある家具やテレビ等を持ってきてもらい自宅に近い居室づくりに努めています。家族の写真、アルバム等も飾り、居心地が良く、安心できる居室作りを提供しています。出来る利用者様はモップ掛け、拭き掃除等し、愛着を持ってもらい、居心地よく過ごしてもらえるよう行っています。	自然(樹木、畑)が目に入る。窓からは明るい日差しが入ってくるように窓が大きい。ベッド・エアコン・カーテン・椅子・洗面台・クローゼットが設置され、テレビは持ち込みである。動線に	
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかる こと」を活かして、安全かつできるだけ自立し た生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっています。トイレの場所が分かるように貼紙し一人でもトイレに行く事ができるよう工夫しています。居室には表札、タンスの引き出しにはラベルを貼るなど、その方に合わせた支援をしています。自立支援の観点からもできる事は行って頂いています。		